

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501293		
法人名	有限会社 <b>レモンの里</b>		
事業所名	グループホーム・ <b>レモンの里</b>		
所在地	三重県津市神納418-1		
自己評価作成日	23年2月28日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501293&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501293&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 3 月 15 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『健康とオープン』を基本理念とした、自由で豊かな暮らしの実現。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が来訪者をさりげない歌で迎え入れたり、帰宅時には玄関まで見送りに出る等自然態で行われている。利用者が自由に穏やかに過ごす事ができるように、職員が日々考え、責任をもってケアに努めている。庭には、事業所の名のレモン等の柑橘類の木や亡くなられた利用者の記念樹の梅等が植わっていたりし、季節の風情を楽しむことができる。普段より家族、医師、事業所との信頼関係を築く、三者の協力のもと看取り、又、希望に応じて事業所での葬儀、庭への遺骨の埋葬等が行われている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外出支援・地域交流・コンサートの実施・実習生の受入れ・外部職員の研修受入れなど実施している。理念を『健康とオープン』に集約し、その実現にはどうすればよいかを常に話し合っている。	「健康とオープン」に理念を集約することで利用者が自由に穏やかに過ごす事が出来る支援を、職員は各々が考え責任をもって行っている。引き継ぎ時や日々のケアにおいても話し合いを行い実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会・神社祭礼・保育園との相互訪問など積極的に取り組んでいる。無断外出にも地域の人に対応していただけるよう依頼している。	利用者が地域の祭りや他のグループホーム等で歌を披露したりしている。又、前の畑等から野菜の差し入れや代表の地域の後輩が庭の手入れをする姿が見られた。老人会等に代表者が講演に出向く等、日頃から地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者や、認知症のお年寄りを抱える家族の相談に乗っている。認知症に関しての理解を深めてもらうことで、家族の精神的負担が減少し、喜んでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・報告を大切に、具現化に努めている。家族との旅行。こども110番の旗設置。100万人サポーター講座実施。	2ヶ月に1回、定期的に会議を実施しており、利用者・家族・市の担当者・自治会・婦人会・老人会・銀行・職員等が参加している。議題には事欠かず、AEDの導入、スプリンクラーの設置等の提案があり、今年度はスプリンクラーを導入している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者に運営推進会議に出席を求め、交流を進めている。消防署の救助訓練・ブラスバンド演奏会など実施。	運営推進会議以外に中学校の職場体験、市立短期大学の学生等を積極的に受け入れている。事業所から市にアクションをすることが重要との考えで、出向いて相談したりして連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いて、施錠をしていない。身体拘束以前に心のケアが必要であることを職員が自覚しており、身体拘束をしないで済むケアを実践している。	環境整備を一番に考え、それらを実施する事で拘束しないケアを実践している。玄関の施錠はされておらず、居間から庭への出入りも自由に行っている。日々のケアにおいて職員間で話し合い、拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種資格取得・研修会参加を通じ学習し、それを職員間でも常に話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者1名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は十分な説明の上締結。また、事前に見学や、一緒に食事をしていただいたりして、本人の居心地感を確認するなどしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用している。代表者と管理者・職員が即決で運営に反映させている。家族旅行などの機会に自由な意見交換を行っている。	運営推進会議で家族の意見を把握することや、個々の利用者と家族との旅行に同伴したり、面会時の雑談から意見を把握し運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は通常殆んど全日ホームに居り、必要に応じ職員とミーティングを行っている。即決で意見を反映させている。	毎日の引継ぎ時や日々のケアにおいても言い易い雰囲気できており、職員からの意見を把握している。提案を受け実施する事が、提案した職員のやる気につながるので、積極的に受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じ、職員配置を増加したり、入居者の体調不良時には、代表者が泊まりこむ・職員の増員など、万全の体制をとっている。毎年定期昇給。有給休暇の完全取得。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の定例の研究会や、管理者講習、他ホームでの研修の実施している。他県の介護職員を実習生として受入れる等、相互研修も取入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会の役員。他のホームとも職員が相互訪問し、他のホームのよさを積極的に取り入れている。各種講習会講師として、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	レモンの里では、個別対応が基本であり、個人の希望を叶える事が『元気の源泉』と考えている。家族との希望のすり合わせも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・本人の希望を徹底的に聞き、帰宅願望時の対応など、安全だけにとらわれるのではなく、人間として生きる希望を実現する努力を続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応時から、本人と家族の希望を叶えることを大切にし、それを実現している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備など自分の出来ることは自分でされる。本人の希望を重視、自己実現に努めた。結果として、自然な形での喜怒哀楽や、互いに教えあう関係が出来た。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に一切制限を加えず、自由な家族関係を重視している。外出・長距離旅行にも家族旅行という性格を持たせ、家族だけでは実現できない関係を構築してきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区老人会出席・祭礼参加。家族や親戚・旧知の方々の来園など積極的に行っている。近隣飲食店・商店などに協力依頼をしている。	家族が事業所に訪れ易い雰囲気心がけることで、家族が宿泊するケースが多い。家族との関係を大切にする事で馴染みの人、場との継続ができています。家族・利用者の兄弟等、来所の輪が広がり、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が多くの、散歩・外出・レクなどの時に互いに助け合う姿も見られる。規則・きまりで生活するのではなく、マナーで生活することを重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	脳梗塞で退所された方には、ご自宅でのケアの相談に乗り、自宅訪問も行っている。過去2年で4名の方の葬儀をホームで執り行った。その後、毎年合同慰霊祭を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の都合で考えず、本人の意向を大切にしている。回想法と未来法の活用により、希望を持ち、アクティブな行動につなげている。(旅行・食事・コンサート等)	個別ケアを大切にしており、利用者との会話を中心に、サインやしぐさ等から把握したり、自分だったらどうかと置き換えたりして把握に努めている。家族旅行に同伴することで家族の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り、日常生活の中で把握している。家族との旅行や会話の中などで本人や家族が昔のことを思い出し、思いがけない経歴などを聞かせていただくことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者は、あくまでも個人として過ごしていただくこととし、自由行動を原則としている。医師・職員・家族とが話し合い、総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師などの関係者と話し合い、ミーティングを通じ自由な意見を集約して介護計画を作成している。介護計画は、臨機応変に変更できるようにしている。	モニタリング・計画作成は、代表者・主任・ケアマネが中心に行っているが、日々の日誌・職員間の会話で、情報を集め計画作成に活かしている。作成後、職員が閲覧し確認を行うとともに、家族には面会時に意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別介護記録に記入し、変化に即時対応している。介護記録は変化が良くわかるように記入方法を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームという、小回りの効く施設であるので、外出・体調変化・暮らしぶりなどを柔軟に支援している。近隣・ボランティア・家族の参加を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族が民生委員の方も見える。ボランティアの方々の参加も多い。保育園・消防・リージョンプラザ・県文化会館・県立高校・三重大学とも協力して支援に当たっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を入れて、複数の医師の診療を受けている。内科：生協病院・川浪内科。整形：村島整形・生協病院・永井病院・林整形など家族・本人の希望で、複数の診療機関で受診をしている。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、受診時の情報を得るために事業所が受診に付き添っている。しかし、入居が長くなると自然に協力医に変更する利用者も多くなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの川浪Dr.いのうえ心身クリニックDr.とも協同し、入院相談や、時には点滴治療も受けている。過去5名の方の、入院をしないレモンの里での看取りにご協力いただいた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	脳梗塞の入院時には、毎日複数職員が訪問、早期退院する体制を取った。又、毎日1時間以上会話をした。その結果、認知症の進行を抑えられた。治療困難な方は、退院し看取りをした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に出来るだけ入院せずに最期を迎えられるよう、医師・看護師と常に話しあっている。良い最期を迎えるためには、平素の健康生活が大切と考え、ケアに当たっている。ご家族の協力で、4名の看取りを行った。	協力医から家族、職員への説明がなされることで両者が協力し看取りを行っている。終末期の事業所の方針を状態変化時や家族との旅行で話し合い、医師が終末期に毎日往診している。看取った家族が庭の手入や屋内の仕事等ボランティアとして参加されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で応急手当が出来る。(受講済み)また、職員同士で日常的に話し合い、訓練も行っている。昨年には、消防署と連携して、地域の方も参加した蘇生訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難用にビニールハウスを設置。避難場所・避難経路も確認している。職員2名が100メートル以内に居住し、緊急対応体制をとっている。近隣の協力も得られる。	一時的避難場所になるビニールハウスやスプリンクラーの設置をしている。部屋・居間は掃き出しの窓になっており、避難も容易にする等災害時の備えに努めている。職員の避難訓練は年2回の実施で終わっている。	一時的な避難場所等の確保はされているが、職員の災害時の対応についての意識をより高め、緊急時に対応できるように期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個別の介助を前提とし、トイレ誘導時はできるだけ目を合わせて小声で話しかけるようにしている。	時間に追われる介護は行わず、個人を大事にして信頼関係を構築し、プライバシーを損ねない対応をしている。入浴時、前をタオルで覆う等、些細なことにも留意し実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	歌舞伎・オペラ・コンサート、北海道・沖縄・旧満州・奈良・伊勢神宮・オランダ・北京など随時外出。(職員・家族・ボランティアの同行)遠方の墓参・兄弟との面会も実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を無くしている。散歩・外出・家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど仕事や遊びを取り入れている。来客の見送り・出迎えなども行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大多数が訪問理美容(サナエ美容室)を利用、2名がなじみの店に行っている。染髪・爪切りなども実施。外出の機会を多くし、身だしなみに気をつけるように仕向けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買出し、下ごしらえ、準備など。上げ膳・下げ膳も出来る人は自分で運んでいる。調理する鮮魚・野菜類をじかに見てもらい、食事意欲の喚起にもつなげている職員も同じ食事をとっている。	もやしのひげ取り等の下準備や下膳等に参加している。献立には利用者の喜ぶ内容を多く取り入れられており、利用者からの何かを食べたいという要求は少ない。時間に追われることなく職員も同じ食事を利用者と供に摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・バランスに配慮しつつ、良質で食事意欲を高めるような食事作りをしている。現在でも全員が箸を使って食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後洗面所へ誘導し、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレはゼロ。終日リハビリパンツ使用2名、夜間のみ使用者3名。居室の便臭がなく、家族面会時にも快適になっている。	現在、ポータブルトイレの利用はないが、リハビリパンツ使用者が数人みられる。入居後、その人の持てる力を見極め、これまでの介護経験を参考に、オムツ外し・トイレ誘導することで自立する利用者が多く、積極的な自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神状況の不穏や帰宅願望に繋がることを理解している。水分摂取を心がけ、魚・野菜中心の食事をしている。散歩や日光浴にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴とし、一人ひとりお湯を替えている。入浴時間や回数は臨機応変としている。職員は大変だが、ゆったりと入浴を楽しんでいた。	午後から入浴を実施しており、順番等は決めず週に2回程度は入浴するように利用者の意向に沿って支援している。バイタルサイン等体調を十分把握し、入浴を促す等配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自分で適宜取られる。殆んどマイペース。就寝時間・起床時間は自由になっている。日中気分よく過ごされると夜間安眠される。居室内温度も、その日によって外気温とすり合わせて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の功罪について理解しており、精神科・内科医と常に相談し、薬の用法を細かく調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族旅行・家族との個別外食・喫茶店・買い物・ドライブ・歌・手芸・草取り・ゴミ出しなど、仕事や遊びを取り入れている。見送り・出迎えも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	無断外出・喫茶店・買い物・家族との外出・ボランティアとの外出・ガーデンの散策・帰宅・宿泊など多様に対処している。(海外旅行・祭礼・コンサート)	庭の通り道をコンクリートにすることで、スリッパで容易にでられるように配慮されており、庭を散歩したりしている。喫茶・レモンの木の場所に向いたり、買い物と一緒に出かける等機会をつくり支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、小額の金銭を持っている。これは特に職員が管理せず、必要に応じ補充している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話のある方2名。家族・友人に電話している。年賀状作成支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花・観葉植物類が豊富。雑然とした中でも季節感を味わえるようにしている。天窓採光をしている。洗濯機・汚物流し・消耗品の戸棚などが無く、落ち着いてくつろげる脱衣所。	玄関には生花が生けられおり、食堂兼居間は開放感ある大きな窓で明るく、大半の利用者は居間でくつろいでいる。庭が大きく、季節に咲く梅や果実の木が植えられ、庭に出た利用者が柑橘類の収穫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキ・ガーデンにも他の人と離れて過ごしたり、少人数で会話できる場所がある。ホールの机も距離感を持って配置している。ビニールハウス内もティータイムのくつろぎの場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みで、自由に使用している。壁に絵画や写真を配置し、筆筒・ドレッサーなどの調度品も持ち込んでいる。全員が普通のベッドを使用している。	ベッド及びクローゼットが備えつけられているが、その他の調度品は利用者が、日頃使っていた筆筒等が置かれ、それぞれの部屋の個性が感じられた。家庭の雰囲気を感じたい事から、ベッドは介護ベッドではなく木のベッドを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人が能力に応じた行動ができる工夫をしている。時計・手すりや、ガーデンを歩くための舗道がある。安全に自然環境に順応できるデッキを食事・会話・作業の場としている。		